



(写真右から) 高良信徳氏、伊波清吉氏、仲程力氏、眞栄城守信氏、喜久川政成氏、伊波光太郎氏

後継者育成と継承 決意

追加認定7年ぶり「感無量」と6人

県指定無形文化財「沖縄の空手・古武術」保持者に19日、新たに6人が追加認定された。2013年度以来7年ぶり。認定された6人は「感無量」などと喜びを語り、伝統空手の技と精神の保存・継承、後継者育成に向け決意を新たに示した。(1面参照)

県指定無形文化財「沖縄の空手・古武術」保持者に19日、新たに6人が追加認定された。2013年度以来7年ぶり。認定された6人は「感無量」などと喜びを語り、伝統空手の技と精神の保存・継承、後継者育成に向け決意を新たに示した。(1面参照)

沖繩上地流唐手道協会の相談役を務める高良信徳さん(90)は「大変な評価を頂き、ありがたい。報告したい師匠は亡くなってもういないが、喜んでくださると思う。健康な限り、沖繩空手の発展のために頑張る」と抱負。

沖繩空手道協会上地流の相談役などを務める仲程力さん(86)は「感無量。これから後継者の育成指導が一番大事になる。また皆で結束し、沖繩空手界発展のために貢献できるように頑張りたい」と述べた。

米ミンガン州在住の伊波清吉さん(87)は「西原町出身。沖繩小林流空手道米國志道館空手道協会会長。これ以上の喜びはない。

米國で45年間、各國の弟子を指導してきた。沖繩の精神文化である空手を今後、世界に紹介したい」

沖繩小林流空手道協会副

「うるま市」は「これまでに認定された保持者は素晴らしい先生たち。私も誇を正し、これまで以上に伝統の型を沖繩の文化として伝えていきたい」と話した。

沖繩剛柔流空手道協会副会長の喜久川政成さん(74)は「黙々と伝統空手を追究してきた。空手は自分を見つめる修業、精神も鍛えられる。自分はまだまだだが、発展に努めたい」と気を引き締めた。

琉球古武道琉棍会会長の務める伊波光太郎さん(81)